【 34 】

氏名	樋 本 裕 介
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第 1636 号
学位授与の日付	昭和61年3月31日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者（学位規則第5条第2項該当）
学位論文題目	**新生児、乳児期における甲状腺機能に関する研究** **第1編 新生児、乳児期における発育に伴う血清甲状腺ホルモンの変移** **第2編 新生児の下垂体甲状腺系に及ぼす諸要因の影響**
論文審査委員	教授 太田善介　教授 長島秀夫　教授 関場 香

学位論文内容の要旨

新生児マススクリーニングにおける先天性甲状腺機能低下症の診断基準に資する目的で，正常成熟新生児，健康乳児を対象として，血清ＴＳＨ，各種甲状腺ホルモン濃度を測定し，発育に伴うこれらホルモン濃度の変移と末梢組織でのＴ４のＴ３への転換機構の成熟時期を検討するとともに，周産期の異常要因，新生児期の栄養方法，母体の甲状腺機能が新生児，乳児の下垂体甲状腺系に及ぼす影響についても詳細に研索した。

新生児，乳児期の血清甲状腺ホルモン濃度の変動の要因は，新生児期のＴＳＨの一過性分泌亢進と新生児，乳児期の末梢組織におけるＴ４のＴ３への転換機構の未熟性と成熟度の差異であると考えられ，その成熟には生後７～８カ月の期間を要することを明らかにした。帝王切開，骨盤位分娩，双胎，新生児黄疸，仮死などの周産期異常要因，母乳栄養，甲状腺ホルモンの経胎盤移行などは，下垂体甲状腺系に影響を与えず，低出生体重児においても，生後５～７日の血清ＴＳＨ値は成熟児と同基準で誤診は避けられることを明らかにした。しかし，血清Ｔ３値の判定には在胎週数，出生時体重を考慮する必要があると考えられた。

論文審査の結果の要旨

本研究は新生児マススクリーニングにおける先天性甲状腺機能低下症の診断基準に資する目的で，正常成熟新生児，健康乳児を対象として血清ＴＳＨ，各種甲状腺ホルモン濃度を測定し，発育に伴うこれらホルモン濃度の変移とその変動の要因について研究を行い，要因として新生児期のＴＳＨの一過性分泌亢進と新生児，乳児期の末梢組織におけるＴ４のＴ３へ

の転換機構の未熟性と成熟度の差異であることを明らかにした価値ある業績であると認める。
　よって，本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。